

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	出雲市立大津小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	4	3	3	3	3	22	35
児童数	92	112	127	103	99	107	6	646	

研究の概要

1. 研究主題

<p>成長欲と知恵をもち、自ら道を拓く子ども                  ~ Get Think Do ~</p>
--

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年において、「算数科」及び「総合的な学習の時間」</p>	<p>算数科 子どもの理解度に差が生じやすい教科であることや、系統性を生かした指導が進めやすいため</p>
-----------------------------------	---

<p>総合的な学習の時間</p>	<p>平成14年度より完全実施になったことや、学校として継続して取り組んできた実績があるため</p>
------------------	--

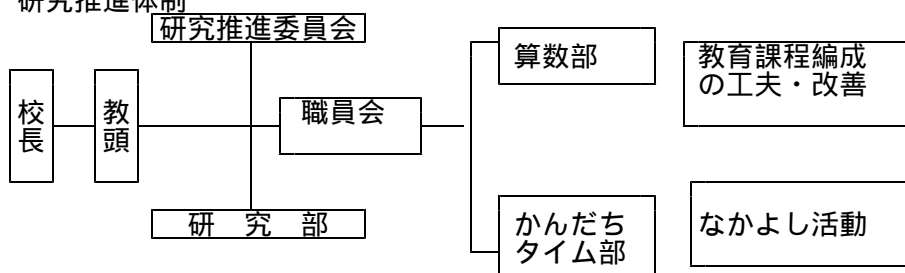
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 『生きる力』を身につけた子どもの育成                  年度途中でテーマの見直し                  『成長欲と知恵をもち、自ら道を拓く子ども』に修正・変更                  ~ Get Think Do ~</p> <p>仮説 授業を中心に据え、個に応じた指導のための指導方法・指導体制を工夫していけば、子どもたちに「確かな学力」を身につけることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別グループによる少人数授業において、効果的なコース設定のあり方を追求しグループごとの指導方法の工夫や、教材の開発を進める。</li> <li>ねらいをはっきりさせた「活動」や「体験」を取り入れ、個の動きを観察し、適切な支援や評価を段階的に行っていく。</li> <li>追求力、課題解決能力、コミュニケーション能力など、子どもたちに「つけたい力」を常に意識した授業づくりを進める。</li> </ul>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ・仮説については平成14年度と同じ</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成14年度の研究内容・方法を継続する予定。</li> <li>学力向上フロンティアスクール研究指定の中間発表会を予定</li> <li>(算数科では少人数授業・総合的な学習の時間の公開授業・分科会等を予定)</li> <li>子どもたちに「つけたい力」を明確にした指導方法の改善について</li> <li>ふり返りカードやポートフォリオなどの自己評価活動について</li> </ul>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 成長欲と知恵をもち、自ら道を拓く子ども                  ~ Get Think Do ~</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究内容・方法については平成14、15年度の研究内容・方法を継続する予定。</li> <li>学力向上フロンティアスクール事業研究指定の本発表会を兼ねて「中国四国算数数学研究発表大会」(島根県・出雲市大会)の開催予定。</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・「算数科」においては、学習過程の中に算数的活動を位置づけていくことで、見通しを持ちながら問題解決をしていくことにつながり、既習事項の想起は、数学的な考え方を育むことにつながる。また学習で数理的な処理のよさや考え方のよさを味わう時間を確保していくことで、進んでそのよさを活用していくとする態度も育まれていくことがわかってきた。
- ・「少人数授業」では、個の実態把握を的確に行うことで、次の指導への方策が明らかとなり、コース別学習や個別指導など個に応じた指導が進められ、基礎的な学習内容の定着に有効であることがわかってきた。
- ・「総合的な学習の時間」において、学習や活動の見通しを持たせていくことで、活動意欲を高め、課題追求力を高めていくことが明らかとなってきた。また子どもたち自身が「どんな力をつけるのか」ということを常に意識した学習を進めたり、学習後の自己評価活動を継続していくことにより、自己の成長を意識したり、自尊感情が高まったりすることも確認できた。

2. 今後の課題

- ・数学的な考え方の力を高めたり、算数のよさを進んで活用する態度を育成していくためには、基礎的・基本的な知識や技能を身につけていく取り組みとのバランスを考えた指導や支援、学習活動を工夫していく必要がある。
- ・各教科で培われる力と総合的な学習の時間において培われる力との関連を明確にしなが、さらに日常生活の中で「生きて働く力」となっていくための指導や支援のあり方について研究を深めていく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- ・標準学力検査（田中教育研究所編）の実施〔13年度より継続中 年2回実施〕
- ・プレテストや単元途中のミニテスト、単元末評価テストの分析
- ・日常の教育活動における教師の観察と児童の自己評価（ふり返りカード・算数日記・ポートフォリオ評価などの継続と分析）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・フロンティア事業研究発表会を平成16年2月13日（金）に開催
- ・フロンティア事業の取り組みを大津小学校HPに公開中

【<http://www.izumo.ed.jp/otsu-sho>】

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                       19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語                       社会                       算数                       理科  
                                   生活                       音楽                       図画工作                       家庭  
                                   体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無